

令和4年

Y8サミット創快横手市議会
会 議 録

自 令和4年11月10日

至 令和4年11月10日

Y8サミット創快横手市議会

令和4年Y8サミット創快横手市議会会議録目次

11月10日（木曜日）

○議事日程（第1号）	1
○会議に付した案件	1
○出席議員	1
○説明のため出席した者	2
○開　　　　会	4
・議席の指定について	4
・議長の選出について	4
・会議録署名議員の指名について	5
・会期の決定について	5
・Y8提案	6
横手南中学校（藤原遙希議員・堀川創太郎議員・松井泰花議員）	6
十文字中学校（小松峻大議員・菅原悠太議員・藤田城太議員）	10
横手北中学校（小原正慧議員・齊藤彬斗議員・高村秋音議員）	12
横手明峰中学校（黒澤壮議員・大屋敷凜久議員・佐藤白峰議員）	16
増田中学校（松川蒼矢議員・石井優芽議員・佐藤絢水議員）	19
横手清陵学院中学校（太田陽朗議員・菅原薫奈議員・齋藤美尋議員）	21
平鹿中学校（木村京都議員・新山大雅議員・鈴木愛望議員）	24
○閉　　　　会	27
○署名議員	28

令和4年11月10日（木曜日）

（第 1 号）

令和4年Y8サミット創快横手市議会会議録

議事日程（第1号）

令和4年11月10日（木曜日）午後1時12分開会

- 第 1 議席の指定について
- 第 2 議長の選出について
- 第 3 会議録署名議員の指名について
- 第 4 会期の決定について
- 第 5 Y8提案第1号「農業振興による地域の活性化について」
(横手南中学校)
- 第 6 Y8提案第2号「旧十文字第一小学校と周辺エリアの利活用について」
(十文字中学校)
- 第 7 Y8提案第3号「横手を健康寿命県内ナンバー1にするための政策について」
(横手北中学校)
- 第 8 Y8提案第4号「ふるさと納税返礼品を使った横手のPRと観光優待について」
(横手明峰中学校)
- 第 9 Y8提案第5号「若年層の流出防止を目指す天下森リゾート計画について」
(増田中学校)
- 第10 Y8提案第6号「『横手の魅力を伝えるストーリーコンテンツ』の設立について」
(横手清陵学院中学校)
- 第11 Y8提案第7号「職業体験マッチングアプリの開発について」
(平鹿中学校)

本日の会議に付した案件

議事日程第1号に同じ

出席議員（21名）

2番	小原正慧	3番	木村京都
5番	松川蒼矢	6番	石井優芽
7番	佐藤絢水	8番	齊藤彬斗
9番	高村秋音	10番	新山大雅

11番	鈴木愛望	12番	藤原遙希
13番	堀川創太郎	14番	松井泰花
15番	太田陽朗	16番	菅原薫奈
17番	齋藤美尋	18番	小松峻大
19番	菅原悠太	20番	藤田城太
21番	黒澤 壮	22番	大屋敷 凜久
23番	佐藤白峰		

説明のため出席した者（31名）

市長	高橋 大	副市長	石山 清和
副市長	藤本 和宏	教育長	伊藤 孝俊
総務企画部長	村田 清和	財務部長	小松 忠昭
まちづくり 推進部長	佐藤 勉	市民福祉部長	竹原 信寿
農林部長	佐々木 義和	商工観光部長	佐々木 公仁
建設部長	山本 信夫	上下水道部長	柿崎 政人
危機管理監	鎌田 広行	教育総務部長	木村 雅美
教育指導部長	西村 直崇	消防長	菅谷 和明
市立横手病院 事務局長	武田 肇	市立大森病院 事務局長	佐々木 寛己
総務課長	嶋田 貴	秘書広報課長	樽川 朝美
人事課長	小玉 幸平	経営企画課長	森田 博範
財政課長	伊藤 英明	横手地域局長	高階 知夫
増田地域局長	阿部 隆雄	平鹿地域局長	佐々木 健悦
雄物川地域局長	佐藤 耕樹	大森地域局長	内桶 圭時
十文字地域局長	畠山 容子	山内地域局長	木村 互
大雄地域局長	竹内 勉		

横手市教育委員会出席者

教育指導課長	桐原 悦子	教育指導課主査	後藤 浩孝
教育指導課主査	高橋 夏子		

横手市議会出席者

議 長 寿松木 孝

議会事務局出席者

事 務 局 長 高 橋 勝 主 幹 木 村 智 子

議 事 調 査 係 長 大 極 孝 春 議 事 調 査 係 主 査 泉 絵 理 子

議 事 調 査 係 副 主 査 吉 方 謙 議 事 調 査 係 副 主 査 藤 原 祐 太

◎開会及び開議の宣告

○高橋勝 議会事務局長 皆さん、こんにちは。

令和4年Y8サミット創快横手市議会の開会にあたり、議長が選出されるまでの間、議長の職務を行う臨時議長の選出を行います。地方自治法第107条の規定では、年長の議員が臨時議長の職務を行うことになっておりますが、皆さんは同年代でありますので、今回は、横手市議会の寿松木孝議長に臨時議長をお願いいたします。寿松木議長、よろしくお願いいたします。

○寿松木孝 臨時議長 ただいまご紹介いただきました横手市議会議長の寿松木孝であります。

今日の臨時議員の皆さんには、先ほど私の気持ちはお伝えしましたが、市議会の代表としてご挨拶をさせていただきます。

Y8サミット創快横手市議会の開催にあたり、ご挨拶を申し上げます。

本日は、市内7中学校のY8サミットのメンバーと学校代表の生徒の皆さん、また、傍聴席には学校関係者の方々をお迎えをしながら、盛大に会議が開催されますことを心よりお慶びを申し上げます。

さて、本日、今回のY8サミットは、学校から、地域社会から、視野を広げた中でより良い地域社会の実現を目指す、誰もが住み続けたい横手市になるための政策提案が行われる予定であります。先ほどの趣旨の説明にもございましたが、中学生の皆さんは自分たちの住むまちを、自分たちの声によって変えていく。社会参画の意識を高めながら地域の一員として、主体的に地域課題の解決に向かって取り組んでこられました。この貴重な経験は18歳になり選挙権を持つようになったときに、身近な問題から社会全体の問題に至るまで自らの考えや、判断や行動していく力を養うものであるというふうに思います。将来の横手市にとりまして、非常に頼もしく感じた次第であります。

各中学校の特徴ある提案については、中学生の皆さんが課題として捉えた横手市の現状がベースとなっております。市長をはじめ、当局の皆さんには、しっかりと提案内容を受けとめた中で真摯な答弁をお願いしたいというふうに思います。また私たち市議会議員としましても、この夏、サミットメンバーの皆さんと意見交換をする機会がありましたし、皆さんの政策内容がさらに、どのように練り上げられているか、どのようにまとめられたのか、誠に期待しているところでもございます。ぜひとも皆さんの熱い想いを、この議場で堂々と披露していただきたいと思っております。

結びになりますが、本日のY8サミット創快横手市議会が実り多いものになりますことをご祈念申し上げます。ご挨拶といたします。よろしくお願いいたします。

それでは、臨時議長の職務を行いたいというふうに思います。

ただいまから、令和4年Y8サミット創快横手市議会を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

◎議席の指定について

○寿松木孝 臨時議長 日程第1、議席の指定を行います。

議席はただいま着席の議席といたします。

◎議長の選出について

○寿松木孝 臨時議長 日程第2、議長の選出を行います。

議長は、議員の中から議会の選挙により選ばれることになっておりますが、今回は指名推選の方法により行うことにいたしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○寿松木孝 臨時議長 ご異議なしと認めます。したがって、議長は指名推選の方法によることに決定をいたしました。

Y8サミット創快横手市議会では、前半と後半でそれぞれ1名の議長に議事を行っていただきますので、2名の推薦をお願いいたします。それでは、ご推薦願います。

5番、増田中学校、松川蒼矢さん。

○5番（増田中学校 松川蒼矢議員） 3番、平鹿中学校、木村京都議員、2番、横手北中学校、小原正慧議員の2名を推薦します。

○寿松木孝 臨時議長 ただいま指名されました3番、平鹿中学校、木村京都議員、2番、横手北中学校、小原正慧議員の2名を議長の当選人と決定することにご異議ありませんか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○寿松木孝 臨時議長 ご異議なしと認めます。したがって、ただいま指名されました3番、平鹿中校、木村京都議員、2番、横手北中学校、小原正慧議員の2名が議長に当選されました。

以上をもちまして、臨時議長の職務は終了いたしました。

前半の議事進行は、3番、平鹿中学校、木村京都議員をお願いいたします。

木村議長、議長席にお着き願います。

【寿松木孝臨時議長 議長席を退き、木村京都議長 議長席に着く】

○木村京都 議長 スムーズに進行したいと思っております。よろしく申し上げます。

◎会議録署名議員の指名について

○木村京都 議長 日程第3、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は横手市議会会議規則第81条の規定を準用し、23番、横手明峰中学校、佐藤白峰議員、15番、横手清陵学院中学校、太田陽朗議員を議長が指名いたします。

◎会期の決定について

○木村京都 議長 日程第4、会期の決定についてを議題といたします。

お諮りいたします。

Y8サミット創快横手市議会の会期は、本日1日といたしたいと思います。これにご異議ありませんか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○木村京都 議長 ご異議なしと認めます。したがって、会期は本日1日と決定いたしました。

◎Y8提案（横手南中学校）

○木村京都 議長 日程第5、Y8提案第1号「農業振興による地域の活性化について」を議題といたします。

提案者より、提案説明を求めます。

◇横手南中学校（藤原遙希議員・堀川創太郎議員・松井泰花議員）

○木村京都 議長 横手南中学校に発言を許可いたします。

12番、藤原遙希議員、13番、堀川創太郎議員、14番、松井泰花議員。

○13番（横手南中学校 堀川創太郎議員） 横手南中学校からは、農業振興による地域の活性化について提案いたします。

これまでのY8サミットにおいても、先輩方や他校の生徒会の方々が取り上げてきたこととして、市の人口減少と若者の流出問題があります。私たちは、この原因の一つとして、若者にとって魅力のある施設がないことが挙げられるのではないかと考えました。実際、市立プールやスキー場などのレジャー施設が無くなっており、初めは短絡的に、遊園地や水族館などの人が集まる施設を作ればいいのではないかと思います。しかし、施設を作ることにについて調査してみると、市の税収は減少しており、設備に掛かる費用に対する利用者数を考えても、実現は難しいことに気付かされました。

そこで、現在、横手市にある産業や施設を活用するという視点で、改めて横手市を見直してみました。世界の情勢を見てみると、例えばウクライナをはじめとする、内戦が起きているような国など、衣・食・住の衣や住が奪われている国においても、最後の砦になるのは食です。しかし、私たちは、毎日の食事があまりにも当たり前のように保障されており、自分たちの住んでいるところが、いかに資源に恵まれているかということに気付かずにはいました。横手の豊かな資源を生み出している農業に、今一度スポットを当てることが重要であると考えました。

確かに、農業用の機械には多額の費用がかかりますし、自然と向き合って作業する厳しさやつらさもあると思います。台風や地震などの災害による収入の減少など、ある種の賭けである危険性もあります。このような農業に対するマイナスのイメージを払拭しながら、やりがいを感じられるプラスのイメージに変えることで、農業に誇りをもった若い世代が受け継ぎ、資源を守り、豊かな食生活を送ることで、安心して移住や子育てができる市を目指すことができると考え、本政策を提案します。

○14番（横手南中学校 松井泰花議員） 具体策の1つ目は、中学生の職場体験や高校生のインターンシップにおいて、農業に関する分野を増やすことです。私たち中学生が職場体験をする際、体験先の職場として考えるのは主に工業、商業やサービス業などに関する企業です。職場体験先として、これらの企業と同じように農業も選択できれば、将来の職業選択の一つとして考えることができるようになるのではないかと考えます。

横手の農業について調べてみると、新しい分野の農業にチャレンジしたり、大規模経営や多角的な経営を工夫したりしている農家の方がいることを知りました。また、市では新たに農業を始める若い方を育てるための研修を充実させていることも知りました。しかし、私たちが住む学区には農家の方が少なく、体験先を探すのは簡単ではありません。横手市内のどの学区でも、様々な分野の農業の体験先を見つけられるシステムをつくり、職業としての農業に触れる機会を広げることで、農業に対する視野を広げたり、魅力に気付いたりすることが期待できると考えます。また、農業への関心が高まることで、私たちの生活に必要な衣・食・住のうち、特に食は欠かせないものであることに気づき、食の大切さを改めて実感することにもつながると思います。

2つ目は、県外などからの農業ボランティアの募集です。作業内容、時期などについて、ボランティアをしたい人の希望と農家のニーズをつなぎます。これによって、農繁期における人手不足を補うとともに、農業や横手に関心を持ってもらうきっかけになると考えます。また、閉校になった学校を活用し、教室を宿泊施設に改装するなど必要最低限の改修をして宿泊を伴うボランティアに提供することで、農業に関心がある人に、気軽にボランティアに参加してもらえることが期待できます。

○12番（横手南中学校 藤原遙希議員） 3つ目は、横手産農産物のブランド化の推進です。具体的には、観光で横手を訪れた方たちに、サクランボ狩りやブドウ狩りと同様に農作物の収穫体験を実施し、それらを調理し提供できる店舗を増やすことで、横手産の農作物の付加価値を高めることを狙います。農家の近隣の食堂は、横手産の野菜や果樹の新メニューの開発ができるよう、研修会を実施して常に新しいものを追究できるようにします。また、いぶりがっこを高級ワインやチーズと共に食することを推奨するなど、横手産の農作物と相性のよい食品のセットによるブランド化を目指します。それを、アンテナショップなど横手以外の場所でもPRすることで、横手ブランドの知名度を高められるのではないかと考えます。

このことは農業に携わる方々が、自分たちの仕事に誇りをもつことにつながると考えます。農業はお金もかかりますし、肉体労働などの厳しさもありますが、農産物のブランド化が仕事の誇りへとつながり、仕事へのやりがいを増すという、好循環を生み出すものと期待します。また現在世界的に価格の高騰が続いている小麦栽培に、市を挙げて取り組み、横手産小麦としてブランド化を目指すなど、米だけに頼らない新たな作物の栽培に取り組むことも必要なのではないかと考えます。我が国の食料自給率を上げることにともつながるとともに、ほかの地域にも影響を及ぼすことで新たな観光の目玉につなげていくこともできるのではないかと考えます。これらの政策によって、農業が横手の豊かさをさらに生み出

し、住みやすい横手市につながっていくと考えます。

以上で横手南中学校からの提案を終わります。

○木村京都 議長 市長。

○高橋大 市長 横手南中学校からは、農業振興による地域の活性化についてのご質問でございました。

3点ございました。まず1点目について、答弁をさせていただきます。

未来の横手市を担う議員の皆さんが人口減少と若者の流出問題の解決手法を深く考え、農業に目を向けていただいたことを、まずもって頼もしく感じております。

農業は、人々が生きていくための食料を生産する産業であり、国としても自給率を上げ、自力で食料をまかなえるよう目指すべきと考えます。そうした中で、横手市は様々な農産物を生産することが可能であり、日本の食を支える国内有数の産地の1つであると言えます。

さらに農業は、健康でさえあれば定年もなく、歳を重ねても続けられる魅力ある職業です。また、農家の皆さんは地域活動への参画も積極的な方が多く、地域コミュニティの維持という点においても大きな役割を果たしていただいております。先ほどお話にあった「農業に誇りをもった若い世代が受け継ぎ、資源を守り、豊かな食生活を送ることで、安心して移住や子育てができる市を目指す」ことは、まさしく今、市が目指していくべきまちづくりの大きな柱の1つと考えております。

ご提案の具体策の1つ目、インターンシップについてですが、市としても積極的に支援していきたいと考えており、市において受け入れ可能な農家を把握し、教育委員会や学校と連携を取りながら進めてまいります。

また、市では今年から中学生を対象に、よこて農業創生大学のオープンスクールを開設し、職業としての農業の魅力についての講話や、農業を志す研修生との対話、農作業を体験する事業を開始しております。議員の皆さんの提案や要望に沿った形で実施内容を改善してまいりますので、多くの中学生の皆さんに参加していただけたらと思います。

これと同時に、保育園・幼稚園や小学生の段階から農業に親しみ、農業への興味や関心を持ってもらうための食農体験の機会を提供していくことも大切です。その土台があって、職業としての農業が皆さんの選択肢に入ってくるものと考えます。

そうした意味では、学校農園を活用する取組や、農業に興味を持つ中学生の皆さん自身が行う取組を、積極的に支援していきたいと考えております。

続いて2点目の質問、県外などからの農業ボランティアの募集についてでございました。

現在は雪害などの災害時に社会福祉協議会などが窓口となりボランティアを受け入れている例がありますし、ボランティアに訪れた方と農家が、その後も交流を続けているというお話も多く伺っております。しかしながら、農業もほかの仕事と同様に、利益を追求する職業の1つです。したがって、人手不足に対し行政が特定の業種や個人に無償の労働力をマッチングするのは難しいのが現実です。

ただし、農業従事者の高齢化や担い手の減少により労働力が不足している現状は、農業が抱える待っ

たなしの課題です。この課題に対しては、今年度より、J A秋田ふるさとが農業の仕事に特化した職業紹介所を設置し、人手が欲しい農家と働きたい人のマッチング業務を本格的にスタートさせております。市では働きたい人への情報発信の部分で協力しておりますので、県外の方にも興味を持っていただけるよう、情報発信の方法を工夫していきたいと考えております。

3つ目の横手産農産物のブランド化推進についてのご質問でございました。農産物を調理、加工して提供するという発想は、6次産業化の推進にもつながるもので、横手産農産物の付加価値を高める上で大事な視点だと思います。農作業体験などを絡めて観光や交流に農業や農産物を生かすという発想も含めて、素晴らしい着眼点での提案だと思います。

市が関与している取組事例としては、都市部の生協会員を招き、農作業体験や食文化に触れていただく交流事業などがありますが、最近では地場産の野菜や果物にこだわったメニューを提供する飲食店やリンゴの収穫を体験できる宿泊プランの提供に取り組む市内事業者、発酵食品や農産物を活用したお菓子やお酒などの商品開発にチャレンジしている若者も増えております。

また、いぶりがっこチーズの例を紹介いただきましたが、農産物と相性の良い食材とのセットによる売り込みの提案につきましては、横手の農産物をアピールする上で有効な手段になり得ると考えます。県内外、あるいは海外において開催する物産展などの場も活用しながら、多くの方においしい組合せを紹介し、知名度アップにつなげてまいりたいと思います。

小麦のブランド化については、残念ながら、収穫時期が梅雨時に当たり、当地特有の多湿な気候のため産地としての確立は課題もありますが、我が国の食料自給率の底上げとさらなる複合産地の推進に向け、J Aや県と協力しながら地域に適した作物や栽培方法を探ってまいります。

米だけに頼らない産地づくりについて、横手市の農業産出額は令和2年度実績で約294億円と秋田県で第1位、東北でも第5位となっております。これは国内でも有数の米どころでありながら、野菜や花きなど園芸作物や果実、シイタケ、畜産など米以外の農産物もバランスよく生産されている地域であること、各品目とも県内トップレベルの生産量と品質を維持していることの結果であり、日本一の複合産地を目指す取組の成果と捉えております。

今回提案いただいたご意見や議員の皆さんの思いを、こうした取組に生かしつつ、農業が皆さんのような若者に選んでもらえる魅力ある職業、産業に成長できるよう、市としても全力でサポートし、改善、活性化を図ってまいります。

貴重なご提案ありがとうございました。

○木村京都 議長 12番、藤原遙希議員。

○12番（横手南中学校 藤原遙希議員） この度は、私たちの提案に耳を傾けて下さり、ありがとうございました。これを機に、私たちの地元である横手について深く知ることができました。また地元への愛着が起きました。まだまだ横手市の政策について勉強不足ですが、これからも私たち中学生を見守ってください。これで横手南中学校の政策提案を終わります。

○木村京都 議長 これではY8提案、第1号の提案を終わります。

◎Y8提案（十文字中学校）

○木村京都 議長 次に、日程第6、Y8提案第2号「旧十文字第一小学校と周辺エリアの利活用について」を議題といたします。

提案者より、提案説明を求めます。

◇十文字中学校（小松峻大議員・菅原悠太議員・藤田城太議員）

○木村京都 議長 十文字中学校に発言を許可いたします。

18番、小松峻大議員、19番、菅原悠太議員、20番、藤田城太議員。

○18番（十文字中学校 小松峻大議員） 政策提案、旧十文字第一小学校とその周辺エリアの利活用について。

秋田県全体を見てもそうですが、私たちが住む横手市でも人口減少が深刻化しています。特に若者が横手市を離れて都会に移り住み少子高齢化が進んでいます。横手市を今よりも、もっと活気溢れるまちにするためには、他県への人口流出を少しでも食い止めることが重要と考えます。また、多くの人に横手市を訪問したい、または住んでみたいと思ってもらえる事や、私たち住民がこれからも住み続けたいと思えるような魅力的で楽しいイベントを行っていくことも不可欠であると考えます。以上のことから、十文字中学校は旧十文字第一小学校とその周辺エリアの利活用を提案します。

この提案をするにあたって調査をしたところ、令和2年度に横手市がサウンディング型市場調査というものを行っていたことが分かりました。その調査の結果、校舎を解体して事業展開をするという提案がいくつかありました。今回、私たちは、現在残っている校舎も含めてその周辺エリアを整備し活用する方法として以下の2点を提案します。

○19番（十文字中学校 菅原悠太議員） まずは提案の1つ目についてです。

旧十文字第一小学校は、十文字駅やインターチェンジから近く、また休日に多くの人でにぎわう道の駅に隣接しています。交通の便が良く、公共施設などが近いエリアに集まっているという利点を生かし、宿泊施設やイベントスペースとして整備することを提案します。宿泊施設の整備によって、観光客が横手に滞在する拠点となることが期待できます。またコロナ禍で延期となっている十文字映画祭が開催されるようになった際、多くの人立ち寄れるイベントも開催する会場とするなどの活用が見込まれます。

現在、横手駅前東口市街地の再開発や市立体育館、市民会館の整備などが進められていて、旧横手地区のにぎわいが期待されています。JRの駅をもつ十文字を、横手の南の拠点として広く知ってもらい、人を呼び込むことで、一層のにぎわいが期待できると考えます。

○20番（十文字中学校 藤田城太議員） 続いて2つ目の提案です。

旧十文字第一小学校周辺エリアの一角に、現在、十文字コミュニティセンターが新しく建設されまし

た。地区交流センターの拠点にもなり、市民が集い、交流できるスポットとしての活用が広がっています。そこで、コミュニティセンターとともに旧十文字第一小学校を市民が集う「副拠点」として交流スペースを整備し、イベントを行うことを提案します。例えば、フリーマーケットや料理教室を開く、体育館でスポーツイベントを行う、冬にはグラウンドをスケートリンクにするなど、幅広い年齢層の人が楽しめるイベントなどを実施することで、市民が住み続けたいと思える横手につながるのではないかと考えます。

また十文字和紙を使った製作教室を実施することで、若い世代が伝統文化を知り、伝えていくことにもつながると思います。十文字コミュニティセンターは現在、一般の方々に多く利用されていますが、学生にはなかなか入りづらいイメージがあります。旧十文字第一小学校校舎は、子どもから大人まで親しみがわきやすい場所でもあります。十文字コミュニティセンターと旧十文字第一小学校校舎を共に活用することで、広いスペースを確保できるだけでなく、幅広い年代の方々が参加しやすくなるのではないかと考えます。

○18番（十文字中学校 小松峻大議員） 以上のように旧十文字第一小学校と、その周辺エリアを横手市外からの人々を呼び込む拠点、さらに私たち市民が集い、日々の生活を豊かにしていく拠点にしていくことで、さらに活気ある横手市を目指していくことを提案します。

○木村京都 議長 市長。

○高橋大 市長 十文字中学校の皆様からは、旧十文字第一小学校と周辺エリアの利活用についてのご提案をいただき、ありがとうございます。

特にご提案の中にありました、人口流出を食い止めるという点につきましては、当市の最重要課題の1つであり、横手市の将来を担う中学生の皆さんの視点で、調査ご検討いただいたことに感銘を受けております。

さて令和2年度のサウンディング型市場調査は、十文字地域の小学校の統合を契機に閉校となる小学校の校舎や敷地の利活用について、民間事業者や地域の皆様からアイデアを募り、今後の検討に役立つ目的で実施いたしました。

旧十文字第一小学校の校舎につきましては、個人や地域の皆様からお寄せいただいたアイデア提案において、宿泊施設として校舎を再利用してはどうかという声もございましたが、4つの民間事業者からご提出いただいた具体的な事業提案では、校舎の解体を前提とした内容を頂戴しております。

十文字地域の小学校統合につきましては、子どもの数に応じた学校規模の適正化という視点を合わせ、校舎の老朽化も大きな課題であり、総合的な判断として建て替えによる整備を選択いたしました。見た目では、まだまだ使えるように見えても、建物の屋根や配管、設備など、目に見えない部分の傷みが進んでおり、民間事業者の皆様も校舎全体の再利用という点については難しいという判断をされたと推測しております。

さて、1つ目のご提案であります宿泊施設やイベントスペースとしての整備についてですが、皆様の

ご指摘のとおり、当該エリアは交通アクセスが良く、道の駅十文字や十文字コミュニティセンターなどが集積する好立地であります。市といたしましては、サウンディング型市場調査の結果を受け、当該エリアを子育て世代を中心に多世代が集まる公共の憩いの場を核としたにぎわい拠点とする方向で考えております。まだ具体的な計画にまでは至っておりませんが、地域の人が集い、内外から人を呼び込む横手市の副拠点エリアとして、一層のにぎわいが生まれるよう調査、検討を続けてまいります。

次に、2つ目のご提案であります校舎を活用した交流スペース整備とイベントについてですが、冒頭申し上げましたとおり、校舎全体再利用する施設の整備は、建物の仕様や改修費用などを含めるとかなり難しい状況です。一方、グラウンドを中心とした敷地につきましては、周辺エリアを含めて広いイベントスペースとしての活用が十分に見込まれ、活用を検討している地域の団体の皆様と、何度か意見交換をさせていただいております。

十文字道の駅や十文字コミュニティセンターとの役割分担、機能連携を考慮しつつ、皆様からご提案いただいた幅広い年代の方々が集いやすくなる場となるように、様々な可能性を視野に入れて進めてまいりたいと存じます。

この度は、貴重なご提案をいただきまして、誠にありがとうございました。

○18番（十文字中学校 小松峻大議員） 丁寧にご答弁いただき、ありがとうございます。私たちの案に、前向きなご回答をいただきうれしく思います。

これで十文字中学校の政策提案を終わります。

○木村京都 議長 これですべて、Y8提案第2号の提案を終わります。

◎Y8提案（横手北中学校）

○木村京都 議長 次に、日程第7、Y8提案第3号「横手を健康寿命県内ナンバー1にするための政策について」を議題といたします。

提案者より、提案説明を求めます。

◇横手北中学校（小原正慧議員・齊藤彬斗議員・高村秋音議員）

○木村京都 議長 横手北中学校に発言を許可いたします。

2番、小原正慧議員、8番、齊藤彬斗議員、9番、高村秋音議員。

○2番（横手北中学校 小原正慧議員） 横手北中学校からは横手を健康寿命県内ナンバー1にするための政策について提案させていただきます。

現在、日本全国で少子高齢化が大きな問題となっています。私たちは、高齢化が進む今、年を重ねても楽しく、健康に過ごすことができる環境づくりが大切であると考えました。そこで私たちは、横手を健康寿命県内ナンバー1にするための政策を提案します。

現在、横手市の高齢化率は約40%。2.5人に一人の割合で高齢者がいることとなります。高齢者の健

康を維持、増進していくことは、現在の横手市には必要不可欠なことです。私たちは、高齢者にとっては大変で億劫になりがちな運動を、若い世代と共に行うことで、楽しく健康増進につなげることができるのではないかと考えました。そこで私たちは2つの取組を提案します。

○8番（横手北中学校 齊藤彬斗議員） 1つ目の提案は、横手市「ラジオ体操」チャレンジデーの実施です。小学生がラジオ体操を行っている夏休み期間中に、町内の住民が誰でも参加できる朝のラジオ体操チャレンジデーを設定します。ポスターを作成して、町内の掲示板に掲示したり、回覧板で各家庭に連絡してもらったりして、たくさんの人に参加してもらえるようにします。事前に各町内で目標参加率を設定し、実際の参加率と比較します。

初めは、各町内でラジオ体操の参加者数を競う方法で行うことも考えましたが、勝敗を付けたり、他と競ったりするのではなく、運動を習慣付けるきっかけ作りや幅広い世代と楽しく体を動かすことに重点を置き、楽しみながら健康を増進できる人が増えればよいのではないかと考えました。

○9番（横手北中学校 高村秋音議員） 2つ目の提案は、各町内の健康の駅的环境整備です。

現在横手市には、大規模が3、中規模が23、小規模が町内型57、施設型10、合わせて67の健康の駅が設置されています。大規模駅には様々な運動器具が設置されており、また専門のトレーナーも常駐しています。大規模駅の利用者を、さらに増やすための取組を行っていくことはもちろん、高齢者の健康増進を図るという視点で考えると、自宅からも足を運びやすい小中規模駅での活動も充実させていく必要があると考えます。

具体的な取組の例として、各町内会館などで開催されているいきいきサロンと健康の駅がタイアップして、高齢者と若い世代が交流できる機会を設けます。例えば簡単な体操を行って体を動かしたり、脳トレにもつながるカードゲームやボードゲーム、また今話題のeスポーツを若者が高齢者に教えながら一緒に楽しんだりできるようにします。

○8番（横手北中学校 齊藤彬斗議員） 大規模駅ではトレーナーが運動に関するアドバイスをしてくれますが、小規模駅では常時トレーナーがいるわけではないので、横手市が作成している健康らくらく体操の動画を見ながら、トレーナーがいなくても体操ができる環境を整備します。

○9番（横手北中学校 高村秋音議員） 小中規模駅を1回利用するごとに1つスタンプを押せるスタンプカードを作ります。スタンプが10個貯まると大規模駅の無料利用券と引き換えることができるという特典を準備します。

○8番（横手北中学校 齊藤彬斗議員） 現在、健康の駅に設置されている運動器具は、高校生以上が利用対象になっているものがほとんどです。小中学生が使えたり、親子で使用できる運動器具を設置します。

○2番 横手北中学校（横手北中学校 小原正慧議員） これらの取組は、若い世代にとっても、人生の先輩である高齢者の方々と触れ合うことを通して、故郷・横手の魅力を再発見することにもつながるのではないかと考えます。また、この交流を通して、地域コミュニティの創生にもつながり、持続可能な

社会の形成の一助になると考えます。少子高齢化が進む今だからこそ、高齢者と若い世代が交流し、一緒に健康について考える機会を持つことを提案します。

以上で、横手北中学校からの政策提案を終わります。

○木村京都 議長 市長。

○高橋大 市長 横手北中学校からは、横手を健康寿命県内ナンバー1にするための政策について、2件お尋ねでございました。最初のラジオ体操につきましての質問については、教育長より答弁をいただきまして、2件目の健康の駅、環境整備についてのお尋ねについて、私から答弁をさせていただきたいと思っております。

健康の駅は、健康をテーマとした交流拠点で、運動指導スタッフが常駐して健康づくりを支援する大規模健康の駅と、運動指導スタッフが公民館などに出向く中規模健康の駅、町内会館に出向く小規模健康の駅の大きく3つがあります。

今回いただいた高齢者の健康増進を図るために、自宅から足を運びやすい小中規模駅の充実が必要とご提案は、私も全く同じ思いであり、横手市では毎年5つ以上の新しい小中規模駅を立ち上げるとともに、いきいきサロンなどの地域の集まりとのタイアップで、地域コミュニティの活性化、認知症予防、閉じこもり予防などに成果を上げています。

小中規模駅では、脳トレ要素を含めた体操にも取り組み、動画にあわせて運動できるらくらく体操のDVDなどを作成して、トレーナーなしでの運動に活用いただいております。

大規模健康の駅に設置している運動器具は、安全面から利用は高校生以上としており、小中学生の皆さんにはご利用いただけませんが、3歳から中学生の年齢層の皆さんには、健康の駅スタッフを親子会などに派遣し、保護者と一緒に取り組めるプログラムを用意しておりますので、ぜひご利用いただければと思います。

具体的な取組の例として挙げていただきましたスタンプカードは、健康に興味を持っていただく入り口として効果があり、短時間で効果が表れやすいとされていますが、一方で運動に取り組むことよりスタンプを集めることが目的となりがちで、一定以上の結果を得られにくいとされております。健康寿命日本一を目指す私たちとしては、現在取り組んでおられる方々のように健康でいたいという自分の中から溢れる思いを大切にしていきたいと思います。

カードゲームやボードゲーム、eスポーツなどのご提案は、若い皆さんとの交流と、体験したことのない新しい世界が高齢者にとって大変新鮮であると考えます。健康の駅の枠にとらわれず、公民館活動なども活用しながら進めてまいります。

少子高齢化が進む今、健康というキーワードのもと、高齢者と若い世代と一緒に考え、横手の魅力を再発見し、地域コミュニティの創出と持続可能な社会の形成を通して、健康寿命ナンバー1に向け取り組んでまいります。

私からは以上でございます。

○木村京都 議長 教育長。

○伊藤孝俊 教育長 横手北中学校の議員の皆様から、高齢化が進む社会に対し、楽しく健康に過ごすことができる環境づくりのため、若い世代とともに運動をして楽しく健康増進につなげる取組として、2つのご提案をしていただきました。

そのうちの1つ目の横手市ラジオ体操チャレンジデーの実施についてお答えをいたします。

まず、ラジオ体操は、特別な道具を必要とせず、いつでもどこでもできる運動で、子どもから大人までほとんどの人がやり方を知っていると思われまますので、多世代の市民が各町内で行うのに大変適した運動でございます。

また、ラジオ体操は、小学生が夏休みの毎朝、町内子ども会等の活動として行っているところがかかり多くありますので、中学生、あるいは町内の大人も参加しやすい行事であると思われまます。実際、市内にはラジオ体操を毎日行っている地区交流センターもございます。

横手市がスポーツを通して元気なまちとなることを目指し策定をいたしました、横手市スポーツ推進計画では、「いつでも」「どこでも」「いつまでも」スポーツに楽しめるよう、スポーツによる健康増進を図ることを目標としており、その中で、幼児から高齢者まで、スポーツを通して生涯にわたり心身に健康増進を図り、運動習慣の定着と体力の向上を目指すこととしております。

市では、チャレンジデーやオクトーバーランアンドウォークのような全国イベントに参加したり、市民参加型イベントとしてよこてシティハーフマラソンを開催したりするなど、運動習慣化のきっかけづくりに取り組んでおります。

令和3年度実績で、横手市において週1回以上スポーツをする成人の割合は53.3%ですが、県平均、全国平均を下回っている状況にあります。また、市内の小中学生の肥満傾向児の出現率は、ここ数年、ほぼすべての学年において、県平均や全国平均を上回り、学校、医師会、保健師等が協力して児童、生徒の生活習慣病予防事業を実施しております。

ご提案していただいたラジオ体操チャレンジデーの実施は、こうした成人のスポーツ実施率を高め、小中学生の生活習慣改善を図る上で、全市民を挙げて、健康やスポーツへの関心を高め、早起き習慣化、健康増進のための運動習慣化の取組に大変に有効であると考えまます。

今後、市のスポーツ施策の実行にあたり、ラジオ体操チャレンジデーのアイデアを取り入れていきたいと考えまます。その時には、ぜひ中学生が小学生のお手本となって、さらに町内の大人が子どもたちと一緒にラジ体操から運動習慣が始まれば最高の結果を残せるのではないかと考えているので、皆さんのご協力をお願いいたします。

とりわけ北中の皆さんには、今後ご相談をしてみたいと思いまますので、よろしくお願いまます。

○木村京都 議長 9番、高村秋音議員。

○9番（横手北中学校 高村秋音議員） ご答弁、ありがとうございます。また、前向きなご回答いただきうれしく思いまます。

1人でも多くの方が、楽しく健康に過ごせるように、私たちにもできることを考えて行動していきたいと思います。

これで、横手北中学校の政策提案を終わります。

○木村京都 議長 これです、Y8提案第3号の提案を終わります。

◎Y8提案（横手明峰中学校）

○木村京都 議長 次に日程第8、Y8提案第4号「ふるさと納税返礼品を使った横手のPRと観光優待について」を議題といたします。

提案者より、提案説明を求めます。

◇横手明峰中学校（黒澤壮議員・大屋敷凜久議員・佐藤白峰議員）

○木村京都 議長 横手明峰中学校に発言を許可いたします。

21番、黒澤壮議員、22番、大屋敷凜久議員、23番、佐藤白峰議員。

○21番（横手明峰中学校 黒澤壮議員） 私たち横手明峰中学校は、ふるさと納税返礼品を使った横手のPRと観光優待について提案いたします。

私たちが住んでいる横手市は自然豊かで、四季折々の姿があります。残念ながら、私たちが住んでいる横手明峰中学校の周辺は、街灯やお店が少なく夜は辺りが真っ暗です。また、冬は大雪で通学にとっても苦労してします。このようにネガティブなイメージを持たれがちですが、横手には全国に誇れる特産品、歴史的な文化財、伝統的行事などが多数あります。また、横手だからこそできることもたくさんあります。さらに、私たちはこれまでの学習で、たくさんの横手で働く方々と関わってきました。皆さん自分の仕事や横手市に誇りをもって働いていることが分かりました。私たちは横手ならではのものと横手で働く方々の思いを生かし、ふるさと納税返礼品という視点から地域の活性化を図りたいと考えました。

○23番（横手明峰中学校 佐藤白峰議員） 提案の1つ目は、ふるさと納税返礼品による横手のPRです。現在よこてfun通信や横手市のホームページなどで情報が発信されています。それらに加えて、ふるさと納税返礼品を使った横手のPRを提案いたします。横手のふるさと納税返礼品には、お米、リンゴやシャインマスカットなどの果物、横手やきそばなどがあります。これを定期便にして、ふるさと納税返礼品の充実を図ってはいかがでしょうか。定期便にすることで、横手の特産品が地域ごとの旬な時期に届くので、1年中横手を楽しむことができます。これは、県内外を問わず多くの人への横手のPRになるのではないのでしょうか。

また、それらのパッケージに横手に来たくするような内容を盛り込みます。パッケージに商品の説明だけでなく、横手の風景の動画や生産者の方々の収穫シーンなどのQRコードを貼り付けます。このような取組で、バーチャル旅行的に横手に行った気分になりながら返礼品を楽しむことができ、実際に横手に行ってみたいと思う人が増えてくると考えます。さらに、これまでの経験を生かして

中学生が特産品を紹介するようなカードを入れることでもよいPRになると思います。

○22番(横手明峰中学校 大屋敷凜久議員) 提案の2つ目は、ふるさと納税返礼品で横手観光の優待をすることです。これは、多くの人に横手に来てもらうための政策提案です。

優待の1つ目は、観光ツアーの参加料の優待です。具体的なツアーの内容ですが、お米やリンゴ、スイカ、ブドウなどの収穫体験・食べ放題ツアーや増田の蔵巡りツアー、冬の雪寄せ体験ツアー、小正月行事のかまくら祭りツアーなどの横手の食や歴史的文化財、伝統的行事を生かしたツアーが考えられます。また、横手はスポーツ立市を掲げており、新しく体育館も建設されます。よこてシティハーフマラソンやかまくらライド、バスケットボールやバレーボールなどの各種プロスポーツ試合などの参加・観戦ツアーができると思います。これらの参加料を、ふるさと納税返礼品で格安提供します。このように、横手の食やスポーツを格安で楽しんでもらえるツアーは多くの人にとって魅力的ではないでしょうか。

優待の2つ目は、横手で使える優待券の発行です。ふるさと納税返礼品に横手のお店、レストラン、観光地、温泉などで使える優待券を付けるのです。例えば、「横手お買い物パスポート」と名付けて、1DAYパスポートだと5%オフ、2DAYパスポートだと10%オフ、3DAYパスポートだと15%オフというように横手に滞在してもらう時間が長いほどお得な優待券を発行します。

また、今はキャッシュレスが主流なので「JENKO」と名付けて、電子感謝券を渡して横手でのお買い物を優待することもできると思います。優待券があることで、横手での観光や買い物が非常にお得になり、横手に来てもらえる人が増えるのではないのでしょうか。

○21番(横手明峰中学校 黒澤壮議員) このようにふるさと納税返礼品を使って横手のPRや観光の優待を行うことで、横手市に多くの方々に来てくださり、地元民である私たちも誇りに思うことができる横手市になっていくのではないのでしょうか。また、このようなツアーを続けて横手市の魅力を全国に発信することで、企業の誘致やスポーツ関係の誘致にも広げることができれば、さらに横手市の活性化に繋がると考えます。

以上で、私たちの提案を終わります。

○木村京都 議長 市長。

○高橋大 市長 横手明峰中学校の皆様から、ふるさと納税返礼品についてのお尋ねでございました。

横手市では、ふるさと納税制度を活用して、市内事業者の販路拡大のきっかけづくりや、横手ファンの拡大を目指しております。

同時に、議員の皆様よりご発言のあった、ふるさと納税返礼品という視点から横手市の魅力を全国に発信し、地域の活性化を図るという考え方は、市が実現したい姿でもあります。

今回、議員の皆様からふるさと納税に関し、具体的に2つのご提案をいただきました。

まず、1つ目のご提案である、ふるさと納税返礼品による横手のPRについてですが、横手の特産品が旬な時期に届くという定期便は、横手の季節を感じていただける魅力的な返礼品になるものと捉えております。現在、お米や卵など同一品目による定期便のみとなっておりますので、複数品目による定期

便の実現に向けてふるさと納税代行事業者、市内事業者と一緒に検討してまいりたいと考えております。

続きまして、QRコードを活用したPRについてですが、返礼品のパッケージなどにPR用のQRコードを取り入れるというご提案は、多くの寄附者の皆様に横手市の魅力を発信することができる、新たな取組になる可能性があります。

また、中学生の皆さんが思いを込めて作っていただいた特産品の紹介カードは、寄附者の皆様にとって非常にうれしいものであると同時に、横手市民とのつながりの一つの証になるのではないかと感じたところです。これら新たなPR方法の実現に向けて前向きに考えてまいりますので、その際には皆様にもご協力いただきたいと思います。

次に、2つ目のふるさと納税返礼品で横手観光の優待をするというご提案の中の、横手で使える優待券の発行についてお答えいたします。ふるさと納税制度では、返礼品の金額を寄附金額の3割以下とするものの基準が設けられております。例えば寄附金額1万円に対して、返礼品3,000円以下というものです。

そのため、利用方法によって経済的な価値が変動する何パーセントオフといった優待券は、返礼品として認められないものとなっておりますのでご理解ください。

また、キャッシュレス対応するための電子感謝券「JENKO」は、その名称に横手らしさを感じるものではございますが、「JENKO」専用のキャッシュレスシステムの構築等などに費用がかかることや、参加いただく横手市内の様々な規模の事業者様にも、運用に関わる費用負担が発生する等、課題が多くあることから、現時点での導入は難しい状況にあります。

一方で、もう1つのご提案である、観光ツアー参加料の優待は、体験型の返礼品と位置づけられる取組になるかと思えます。

横手市では、気候や自然災害に左右されない返礼品を模索しており、ご提案いただいた農産物の収穫体験・食べ放題ツアーや、よこてシティハーフマラソンへの参加といった体験を返礼品にすることは、これまでの横手市には無い、新たな返礼品として実現できるものと考えております。今後、関係団体と連携し、実現に向けて進めてまいります。

引き続き、ふるさと納税制度を通じて、横手市の魅力の発信と地域の活性化に努めてまいりますので、今回に限らず、これからも皆さんの柔軟なアイデアをお寄せいただきますようよろしくお願いいたします。

○木村京都 議長 22番、大屋敷凜久議員。

○22番（横手明峰中学校 大屋敷凜久議員） 市長、ご答弁ありがとうございました。また前向きなご検討、ありがとうございました。今後、横手市のPRなどで、もし中学生が協力できるのであれば中学生全員、積極的に協力していきたいと思えます。

最後に、私たちの政策提案に関わってくださった全ての皆さんに感謝申し上げ、横手明峰中学校の政策提案を終わります。ありがとうございました。

○木村京都 議長 これで、Y 8 提案第 4 号の提案を終わります。

ここで、議長を交代いたします。ここからは、後半の議長に選任された、2 番、横手北中学校、小原正慧議長に議事進行をお願いいたします。

議長交代のため、暫時休憩いたします。

再開は、午後 2 時 3 5 分といたします。

午後 2 時 2 3 分 休 憩

午後 2 時 3 5 分 再 開

○小原正慧 議長 休憩前に引き続き、会議を開きます。

後半もスムーズな議事運営となるよう、ご協力をお願いします。

提案説明を再開します。

◎Y 8 提案（増田中学校）

○小原正慧 議長 次に、日程第 9、Y 8 提案第 5 号「若年層の流出防止を目指す天下森リゾート計画について」を議題といたします。

提案者より、提案説明を求めます。

◇増田中学校（松川蒼矢議員・石井優芽議員・佐藤絢水議員）

○小原正慧 議長 増田中学校に発言を許可いたします。

5 番、松川蒼矢郎議員、6 番、石井優芽議員、7 番、佐藤絢水議員。

○5 番（増田中学校 松川蒼矢議員） 少子高齢化により秋田県の人口は年々減少し、横手市、そして私たちの暮らす増田町も例外ではありません。高齢化が進む中で、横手市の高齢者が豊かな暮らしを営み、活躍の場を得たり、生きがいを感じたりできるようなアイデアを考え、施策を進めていくことは非常に大切なことと思います。少子高齢化に伴う人口減少の背景には、進学や就職による若者の県外流出も大きな要因となっています。こうした現状を受け止め、私たちは若年層の流出防止に着目し、横手市に暮らす若者もワクワクし、県外に一度出た人もいずれは帰って来たいと思えるような、他市町村にはない魅力ある横手市にするための特色が必要だと考えました。横手市に活力を与え、働き手となり、社会の担い手になるのは、やはり若年層の充実にあると考えました。

令和 3 年度に私たちの暮らす増田町にある天下森スキー場エリアの再開発について、天下森スキー場等整備計画が横手市から示されました。施設・設備の老朽化が著しく、大規模な施設・設備の整備が必要な時期にきていることからこのことです。既存の自然環境を生かした天下森エリアの再開発を通して、多くの人が年間を通じて余暇、レジャーを楽しむ場を創出することで、若年層の流出を防ぎ、子育て世代やその家庭が横手市での生活に楽しみを見だし、生き生きと暮らせる横手市にするために天下森ス

スキー場等整備計画を基にした政策を提案します。

○7番（増田中学校 佐藤絢水議員） どこにもない特色ある天下森エリアにするための目玉として、近年若者に人気のあるエクストリームスポーツ、通称「Xスポーツ」にも注目しました。天下森の自然環境を生かしたトレイルランニング、山間を走り抜けるモトクロスバイクやバギー、マウンテンバイクのコース、ダウンヒル、さらにはBMXやスケートボードを楽しめるパークを整備することで、スキー場の夏季の利用、集客の促進を図る計画です。市の整備計画で示されているキャンプ場の整備に伴って、Xスポーツ愛好家をはじめ、多くの人々が滞在型のスタイルで、ウィズコロナのニーズを満たすアウトドアライフを満喫できるものと思われます。改修が求められる釣りキチ三平の里体験学習館における浴室、シャワーブース等の充実も欠かせないものかと思われます。冬季にはスキー場の目玉として、やはりXスポーツをアピールするスノーボードパークやハーフパイプの整備も注目すべきポイントになるものと思われます。

○6番（増田中学校 石井優芽議員） 先月、増田では蔵の日の開催されました。増中生は3年ぶりにボランティアスタッフとして、観光客の方々に蔵の説明をするなどの、おもてなしをしました。増田の蔵の魅力、この地域の良さを再確認するとともに、人が集まり交流が生まれることによって地域が活気づいていることを実感しました。

Xスポーツと言えば増田・天下森をPRすることにより、増田の蔵、まんが美術館との一体的な観光の促進、集客も望め、多くの人たちとの交流により、地域の活性化につながることを期待できます。将来的には、Xスポーツの大会、競技会等の開催・誘致につながれば、増田の名前がさらに広まっていくものと思われます。Xスポーツの体験、トレイルランニングに付随したトレッキングコース、散策路の整備等により若年のみならず、あらゆる世代が楽しめる天下森リゾートを生み出すことで、魅力ある横手市、生き生きと楽しめる横手市に近づけるのではないのでしょうか。

以上で増田中学校の提案を終わります。

○小原正慧 議長 教育長。

○伊藤孝俊 教育長 まずは3年ぶりの蔵の日のボランティア、大変増田中生、頑張ってくれたというお話をお聞きしています。ありがとうございました。

増田中学校の議員の皆さんから、若年層の人口流出防止のため、魅力ある横手市の特色として、天下森エリアの再開発である天下森スキー場等全体整備計画に対して、さらにエクストリームスポーツパークを整備した天下森リゾート計画を提案していただきました。若者らしい視点と発想で横手市の新たな魅力創造を構想していただいたものと思います。

天下森リゾート計画に対する考えをお答えします。

天下森スキー場は、全体で約10ヘクタールとなっており、このうち天下森グレンデはスロープ延長1,400メートル、平均傾斜10度、夏虫沢林間コースは延長800メートルとなっています。ペアリフト1基、ロープトウ1基、夏虫沢ヒュッテを備えています。

天下森スキー場等の整備全体計画については、地域の方々やスキー競技関係の皆様からのご意見を参考にして令和4年3月に完成しております。今年度は、計画に従って、夏虫沢ヒュッテ改築の設計業務やナイター照明の改修工事を進めているところです。今後、ヒュッテ改築工事やキッズコースの整地工事に加え、周辺施設も含めた、夏場の活用についても計画を進めてまいります。

ご提案では、天下森エリアの夏場利用として、トレイルランニング、モトクロスバイク、バギー、マウンテンバイクダウンヒルのコース、スケートボードパークを整備して、冬場はスキー場にスノーボードハーフパイプを設置する内容となっています。

エクストリームスポーツは、アクロバティックな動きや、過酷な自然環境下で行う離れ業などを醍醐味とする競技を総称し、ストリートカルチャーとの親和性が高いことから、若者に受け入れられているものと思います。東京オリンピックでは、エクストリームスポーツの系統で、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィンが新種目として追加されたことも最近の盛り上がりの一因であると思います。赤坂総合公園内のスケートボード場も大変人気がありますので、天下森エリアでも活動が可能になると、夏場利用の集客に大きく繋がるのではないかと考えられます。

天下森スキー場の限られたエリアの中で、具体的にどの競技がどの程度できるか、現在の計画内容とも照らし合わせて十分な検討が必要となりますが、様々な活動の場を提供し、天下森エリアの魅力を発信することを念頭に、横手市の地域活性化につながるよう天下森スキー場等全体整備計画を進めてまいります。

ご提案、ありがとうございます。

○6番（増田中学校 石井優芽議員） 私たちの提案に対する答弁、ありがとうございます。

このY8サミットを通して、私たちの増田を見直す、いいきっかけになりました。地域の一員として増田を活性化できるよう、中学生としてできることを頑張っていきたいと思います。

これで増田中学校の政策提案を終わります。

○小原正慧 議長 これです、Y8提案第5号の提案を終わります。

◎Y8提案（横手清陵学院中学校）

○小原正慧 議長 次に、日程第10、Y8提案第6号「『横手の魅力を伝えるストーリーコンテンツ』の設立について」を議題といたします。

提案者より、提案説明を求めます。

◇横手清陵学院中学校（太田陽朗議員・菅原薫奈朗議員・齋藤美尋議員）

○小原正慧 議長 横手清陵学院中学校に発言を許可いたします。

15番、太田陽朗議員、16番、菅原薫奈議員、17番、齋藤美尋議員。

○15番（横手清陵学院中学校 太田陽朗議員） 横手清陵学院中学校からは、横手の魅力を伝える「ス

トーリーコンテスト」の設立を提案いたします。

当初、私たちはアニメで横手を活性化する政策を考えておりました。それは、アニメで取り上げられた場所に「聖地巡礼」と称して、アニメファンや観光客が押し寄せているというニュースを見たからです。また、アニメで取り上げられることで、住んでいる横手市民も自分たちの街に誇りをもつことができ、活性化につながると考えたからです。さらに、現在、横手市ではマンガ活用構想を策定し、マンガを生かしたまちづくりを行っていることも知りました。アニメで横手を活性化する政策は現在、横手市が行っている政策を発展させたものであると思いました。

しかしアニメの制作には多くの工程、人材、費用が必要であることが分かりました。そこで、すぐに検討する過程で、アニメを製作するための費用が、1分30万円程度で、30分のアニメを製作すると約1,000万円かかることがわかり、現実的ではないことも分かりました。

そこで、すぐにアニメの制作を目指すのではなく、横手の活性化を進めながらアニメの制作を実現に近づけていくことができないか考えました。

そこで着目したのが、アニメを構成するストーリーです。アニメは絵だけでなく、ストーリーも重要な要素です。ストーリーを充実させることによって、アニメによる横手のPRが可能になるのではないかと考えました。そこで、横手が登場するストーリーのコンテストを開催することで、広い意味でマンガやアニメの題材につながり、横手市の活性化につながると考え横手の魅力を伝えるストーリーコンテストの設立を提案します。

- 16番（横手清陵学院中学校 菅原薫奈議員） 横手の魅力を伝えるストーリーコンテストの応募条件を、作品中に横手市が登場し、横手の魅力が伝わる内容とします。審査員は横手在住の方のほかに、横手出身の漫画家、声優、横手にゆかりのある文化人、例えば壇蜜さんなど様々な分野で活躍しており、横手の魅力に詳しい方をお願いします。

大賞を受賞した作品には、賞金を授与するとともに作品の書籍化を行い、横手市立図書館や横手の小中学校の図書館への配架を行います。横手市立図書館には横手の魅力が伝わる、ストーリーコンテストの特設コーナーをつくり、受賞作品の中の横手市が登場する一場面をマンガやアニメのイラストと一緒にパネル化して展示し、多くの方が足を止め興味を持ってもらえるようにします。

小中学校では読書の時間に読んだり、授業などで活用したり横手の魅力が伝わる、よこての魅力が伝わるストーリー感想文コンクールを開催したり、作品に登場した台詞を広報等で活用したりと、幅広く活用できると考えます。

- 17番（横手清陵学院中学校 齋藤美尋議員） 横手の魅力が伝わるストーリーコンテストを設立することによって、考えられる横手の活性化として次のようなことが挙げられます。

まず横手に住んでいる住民にとっては、気付かなかった横手の魅力を知ることができます。住んでいるまちが小説の舞台になることで、新鮮に感じられ横手の魅力を再発見できると考えます。そして身近にストーリーコンテストがあることで自分の住んでいるまちの出来事を、小説にしてみようとする人

がたくさん出てくるのではないかと考えます。

さらに小説の舞台に横手が登場することで、横手市民一人一人が主役の意識を持つことができ、横手をもっと好きになると考えます。

次に横手市外の方々は、横手を舞台にしたストーリーを考えるために、横手に取材に訪れ、横手のまちや文化に興味を持つと思います。またストーリーを読んだ人が舞台となった横手市はどんなまちなのだろうかと、観光に訪れる人もいるのではないかと考えます。

これらのことは横手市にとっても交流人口が増えるという効果があります。

○15番（横手清陵学院中学校 太田陽朗議員） 横手が登場するストーリーで横手の魅力が伝わり、アニメやマンガ化、さらにはドラマ化、映画化されれば、当初、私たちが考えた通り、横手市が活性されるのではないかと考え、横手の魅力が伝わるストーリーコンテストの設立を提案いたします。

○小原正慧 議長 市長。

○高橋大 市長 横手の魅力を伝えるストーリーコンテストの設立についてというご提案でございました。

議員おっしゃるとおり、まちの活性化には市民の皆様一人一人が主役の意識をもち、横手をもっと好きになることが大切であると思います。また、アニメやドラマの舞台になったことが契機となり、まちが活性化した事例が全国各地にあることは承知しております。横手市においても作家、石坂洋次郎先生の小説「山と川のある町」が映画化された際に撮影ロケの大部分が当市で行われました。その他にも、横手市増田まんが美術館初代名誉館長である漫画家、矢口高雄先生の作品には故郷である横手が舞台になっている場面が多くあり、そのことがきっかけで横手ファンになっていただく場合もあることから、まちの活性化には有効な手段であると考えます。

まちを活性化するためにはアニメやドラマの舞台となること以外にも様々な手段があります。例えば横手市では、横手やきそばや豊富な農産物、発酵文化、雪まつりや増田のまちなみなど多くの魅力を、首都圏での物産展やイベントでPRすることで、交流人口の増加や、まちの活性化につながる取組を行っております。

ご提案いただいた横手の魅力を伝えるストーリーコンテスト設立は、アニメ制作を実現に近づけるための着眼点として大変参考になりました。しかしながら、ストーリーはアニメ制作において重要であり、人を惹きつけるストーリーを作り上げることはプロの世界においても容易ではないと聞いております。当市といたしましては、コンテスト設立は、こうしたプロの世界の方々に対応したコンテストにしなければならぬと認識しており、現段階での設立はハードルが高いと考えております。

当市の取組の1つに市内小学生・中学生を対象とした横手市ミライの漫画家発掘マガジン制作プロジェクトがございます。それぞれがストーリーを考えるとところから始まり、それを絵で表現し、マンガ作品を作り上げ、一冊のマガジンとして発行しているものです。今年度はよこてをテーマに、横手であった出来事、横手がこうなったらいいな、自分が想う横手のイメージ、横手の風景や名産が登場する物語のマンガ作品を募集し、今後出版関係者からの講評を添えてマガジンとして発行される予定でございます。

す。これは、ご提案の横手の魅力を伝えるストーリーコンテンツ設立の趣旨の1つである横手の魅力を再発見し、横手をもっと好きになるためと思いを同じにしたところがございます。

市といたしましては、横手市ミライの漫画家発掘マガジン制作プロジェクトを活用し、横手の未来の再発見と横手愛の醸成、そして将来的にまちの活性化につながるよう展開してまいります。今後の取組にご協力を、よろしくお願いいたします。

○15番（横手清陵学院中学校 太田陽朗議員） 私たちの提案を聞いて下さり、ありがとうございました。横手市の活性化について、深く考えることができました。

これで横手清陵学院中学校からの提案を終わります。

○小原正慧 議長 これ、Y8提案第6号の提案を終わります。

◎Y8提案（平鹿中学校）

○小原正慧 議長 次に、日程第11、Y8提案第7号「職業体験マッチングアプリの開発について」を議題といたします。

提案者より、提案説明を求めます。

◇平鹿中学校（木村京都議員・新山大雅議員・鈴木愛望議員）

○小原正慧 議長 平鹿中学校に発言を許可いたします。

3番、木村京都議員、10番、新山大雅議員、11番、鈴木愛望議員。

○3番（平鹿中学校 木村京都議員） ずっと住みたいと思うまち横手。自分たちのふるさとが、そこに暮らす人々にとって住みやすく、居心地のよい場所になればこれほどうれしいことはありません。

しかし、横手市の人口は年々減少し、特に若者が横手を離れ、都会に出て行く現状があります。その理由の1つが、仕事を求めています。確かに、横手は大都市に比べれば働く場所は少ないかもしれませんが、魅力的な企業やふるさと横手に貢献している職業がたくさんあります。昨年度、学校で行われた企業説明会で、私たちも横手のすばらしい企業について、たくさん知ることができました。このような横手市の様々な企業を多くの人に知ってもらったり、子どものころから職業により関心をもったりできるように、私たち平鹿中学校が提案する政策は、職業体験マッチングアプリの開発です。

これは、若者が自ら職業体験の予約ができ、企業は自社に興味関心の高い若者を探することができるアプリです。各企業はアプリを通じて日時、受け入れ可能人数、体験内容等をPRします。それを見て、個人が申込みを行い、実際に働く体験ができるというものです。

○10番（平鹿中学校 新山大雅議員） このアプリを通じて、若者が簡単な手続で、横手市の企業で職業体験を行う機会を得ることにより、次のような効果が期待できます。

1つ目は、就職を希望する個人と企業 mismatchingを防ぐことができるということです。令和3年度調査の厚生労働省職業安定業務統計によると、秋田県の就職3年後の離職率は高卒者で38.8%、

大卒者で 36.6%と大きな割合になっています。さらに、秋田県の大卒者の離職率は全国平均の 34.8%を上回っています。

こんなにも離職率が高くなってしまうのは、個人と企業 mismatching によるところが大きいのではないかと考えました。夏休み中、平鹿中学校では 2 年生が職場体験活動を行いました。実際に社会に出る経験をし、働く大人を間近で見て大変貴重な経験をすることができましたが、後輩たちからは、「想像していた仕事内容と違うことに驚いた」「自分の苦手な作業を多く含んだ体験内容に難しさを感じた」といった感想を聞くことができました。先ほど示した離職者の割合も、このように自分が持っていた仕事のイメージと現実にギャップを感じた結果の表れではないかと考えます。

2 つ目は、若者が横手市にある魅力的な企業について詳しく知ることができるということです。現在、複数の工業団地が建設され、令和 3 年度の秋田県企画振興部調査統計課の資料では、横手市の事業所は 4,160 もあることが分かりました。株式会社アスターなど、世界トップクラスのモーターコイルの技術をもつ企業や、自動車関連の企業も多くあります。その他にも、魅力的な企業やふるさと横手に貢献している企業が多くあるのですが、意外と知らない若者が多いのが現状です。企業側にとっても、就職前に自分たちの企業で仕事内容を知ってもらえるチャンスになり、mismatching による離職者を減らすことにつながります。また、横手市には、独自に職業体験の受け入れを宣伝・募集している企業もありますので、このアプリに多くの企業の職業体験情報を集約することができれば、企業側も体験を希望する個人にとっても大変便利です。

3 つ目は、このアプリをうまく使えば、小中高一貫した職業についての学習ができるということです。小学生の職業体験は難しいかもしれませんが、アプリを利用すればどんな企業が横手市にあり、どんな仕事をしているのか知ることができます。中学校や高校では、職場体験の流れを「学校から企業へお願いをする」から「企業の募集を見て個人で予約・体験をする」に流れを変えることが可能です。

学校で一人一人が使用しているタブレットでもアプリを操作することができるようにすれば、子どものうちから働くことをより身近に感じることができるようになります。小中高一貫して地元の企業について学ぶ機会があれば、職業に対する意識が変わることはもちろん、個人の高校選択や大学選択の際にも役立つのではないかと考えます。さらに、子供のころから横手で働き、横手で暮らすイメージを持つことができるようになり、将来、横手市で活躍する人材を確保、育成することにつながります。

○ 1 1 番（平鹿中学校 鈴木愛望議員） ここまでお話したことを簡単にまとめると、この職業体験マッチングアプリというのは、簡単な手続で横手市の企業について知ったり、職業体験ができたりする若者にとっての横手市版企業図鑑のようなものであると考えています。

さて、アプリ開発となるとその費用が気になる場所ですが、すでに出回っている無料のアプリを使えばその費用を抑えることができます。また、現在、横手市デジタル推進計画を作成中だと伺っています。スマホやタブレット 1 つで「24 時間×365 日×どこからでも」様々な行政サービスが受けられる、市民の状況に応じた最善の方法で行政サービスを提供できる、このような取組を行っている自治体は全

国に増えてきています。この横手市デジタル推進計画で行う行政サービスとタイアップして、職業体験の情報も得ることができるようにすれば、より横手市民に、横手の若者にこのアプリを利用してもらえないのではないのでしょうか。

アプリの宣伝方法としては、まずメディアに取り上げてもらうことを考えています。そこで注目度を上げます。実際に利用者が増えていけば、SNSなどを使って自身の体験を発信し、さらに知名度が広がっていくことを期待しています。

スマホ1台、タブレット1台から始められる職業体験マッチングアプリ。実現できれば、横手市の企業で働きたいと思う若者を増やすとともに、これから横手市で活躍していく人材の育成につながるのではないのでしょうか。

以上で、平鹿中学校の政策提案を終わります。

○小原正慧 議長 市長。

○高橋大 市長 職業体験マッチングアプリの開発についてご提案いただきました。ご提案の中で触れていただいたとおり、新卒者の就職3年後の離職率は高く、原因の1つとして、就業の場を探す側と人材を確保したい側のミスマッチングもあり、マッチングは重要であると考えています。また、興味のある企業での業務体験や、仕事をしている人から直接話を聞くなどの働く環境を体験することは、企業の魅力や熱意を感じとれるだけでなく業務内容や働くということの理解を深める意味でも欠かせないものであり、議員の皆さんと同様の認識を持っております。

横手市では、市内の魅力ある企業を知ってもらう取組として、議員からもご説明いただきました中学生向け企業説明会の他、高校生を対象とした合同企業説明会を、秋田県、ハローワークと連携し毎年実施しております。

これは、将来就職先を検討される際の選択肢としていただけるよう、若いうちに市内企業を知ってもらい、就職後のミスマッチングを防ぐことも目的として開催しているものです。

ご提案の職業体験マッチングアプリについては、インターネットサイトも含めて秋田県や県内団体が同様の取組を実施しています。

その一例を紹介しますと、就活情報サイト「こっちゃけ！」は、570以上の県内企業が登録する秋田の就活情報に特化したサイトで、県内企業でのインターンシップを希望する学生の皆さんが、受入企業や日程、内容等の情報収集ができるほか、インターンシップの申込みも可能となっております。さらに、インターンシップ紹介動画、先輩社会人の感想などの企業PR動画の視聴も可能で、オンラインで企業の魅力を感じることができるサイトです。

また、秋田県が運営する、県内就職・生活サポートアプリ「秋田GO!EN（ごえん）」では、秋田で就職を考える高校生・大学生等の皆さんが就活イベント情報を得ることができ、県内に就職すればお得な優待サービスを受けることができるというアプリです。この優待サービスは、就活イベントや支援制度を利用するとポイントが獲得でき、そのポイントを使って、例えば、ヘアカット代の割引から自

動車の購入時に特典を受けられるなど、広く利用することができます。

さらに、公益財団法人秋田県ふるさと定住機構が運営する、Aターン就職マッチング支援サイト「あきた就職ナビ」は、Aターンを希望される皆さん向けに県内企業の求人や就職イベント、市町村の支援制度等の情報提供をはじめ、新着求人をメールでお知らせするなど、秋田で働きたい皆さんの就職マッチングを支援するサイトです。このほか、横手市でも、仕事を行うスペースを貸し出して起業を目指す方や起業して間もない方を応援するBizサポートよこてや、横手で働きたいと考えている方と求人企業のマッチングを行うポータルサイト横手JOBナビなどの活用によって、新たに起業する方や働く情報を求める方を支援しております。

これらのサイトやアプリ、起業者支援は、認知度がまだまだ低いと感じておりますので、さらなる周知に努め積極的な活用を促すとともに、中学生の皆さんによる企業情報の閲覧や職業体験申込みにご活用いただくことも意識したサイト構成にできないか関係機関と協議を重ねてまいりたいと考えております。

今後さまざまなツールの周知に努めながら、学校を訪問したり、企業説明会を開催したりすることで、皆さんとの対話を通じて企業の魅力を発信していきます。

議員の皆さんもご存じのように、市内には、市民の皆さんから長く愛される商品やサービスを提供し続ける魅力的な企業がたくさんあります。将来は地元横手で活躍され、ぜひ皆さんの力で地元企業をさらに魅力アップしていただくようお願い申し上げます。

○小原正慧 議長 10番、新山大雅議員。

○10番（平鹿中学校 新山大雅議員） 本日は私たち平鹿中学校の提案を、お聞きくださりありがとうございました。そして丁寧なご答弁ありがとうございました。

このY8サミットの活動を通して、横手市についてより詳しく知ることができました。地域のために何ができるのか、これからも考え続けて行きます。また、私たちも横手で活躍できるような人材になれるように日々学び、多くのことを身につけていきたいと思っております。

本日は本当に、ありがとうございました。

これで平鹿中学校の政策提案を終わります。

○小原正慧 議長 これですべて、Y8提案第7号の提案を終わります。

◎閉会の宣告

○小原正慧 議長 以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

これで、令和4年Y8サミット創快横手市議会を閉会いたします。

大変お疲れ様でした。

午後3時17分 閉会

この会議録の内容に間違いがないことを確認し署名します。

横 手 市 議 会 議 長 寿松木 孝

Y 8 サミット創快横手市議会議長 木 村 京 都

Y 8 サミット創快横手市議会議長 小 原 正 慧

Y 8 サミット創快横手市議会議員 佐 藤 白 峰

Y 8 サミット創快横手市議会議員 太 田 陽 朗

参 考 資 料

○令和4年 Y8サミット創快横手市議会
政策提案

令和4年

Y8サミット創快横手市議会

政策提案

令和4年Y8サミット創快横手市議会 政策提案目次

- (1) Y8提案第1号 農業振興による地域の活性化について
(横手南中学校からの提案) 1ページ

- (2) Y8提案第2号 旧十文字第一小学校と周辺エリアの利活用について
(十文字中学校からの提案) 2ページ

- (3) Y8提案第3号 横手を健康寿命県内ナンバー1にするための政策について
(横手北中学校からの提案) 3ページ

- (4) Y8提案第4号 ふるさと納税返礼品を使った横手のPRと観光優待について
(横手明峰中学校からの提案) 4ページ

- (5) Y8提案第5号 若年層の流出防止を目指す天下森リゾート計画について
(増田中学校からの提案) 5ページ

- (6) Y8提案第6号 「横手の魅力を伝えるストーリーコンテスト」の設立について
(横手清陵学院中学校からの提案) 6ページ

- (7) Y8提案第7号 職業体験マッチングアプリの開発について
(平鹿中学校からの提案) 7ページ

Y 8 提案第 1 号

農業振興による地域の活性化について

横手南中学校から次のとおり政策提案する。

令和 4 年 1 1 月 1 0 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



横手南中学校

〔提案説明者〕

12 番 ふじわらはるき 藤原遙希 議員、13 番 ほりかわそうたろう 堀川創太郎 議員、14 番 まついひろか 松井泰花 議員

〔提案要旨〕

農業振興による地域の活性化について提案する。世界情勢を見ると最後の砦になるのは食であるが、食事が当たり前のように保障され、資源に恵まれていることに気付かずいたことから、横手の豊かな資源を生み出している農業にスポットを当てるのが重要と考えた。農業に誇りを持った若い世代が受け継ぎ、資源を守り、豊かな食生活を送ることで、安心して移住や子育てができると考え、次の 3 点を提案する。

1. 中学生の職場体験や高校生のインターンシップに農業に関する分野を増やす

職場体験先は主に工業、商業やサービス業などだが、農業も選択できれば職業選択の一つとして考えることができる。どの学区でも体験先を見つけられるシステムをつくり、職業としての農業に触れる機会を広げることで、農業に対する視野を広げ、魅力に気付くことが期待でき、食の大切さを改めて実感することにもつながる。

2. 県外などからの農業ボランティアの募集

作業内容、時期など、ボランティアの希望と農家のニーズをつなぐことにより、農繁期における人手不足を補い、農業や横手に関心を持つきっかけになる。また、閉校した学校を活用し、教室を宿泊施設に改装して提供することで、気軽にボランティアに参加してもらえることが期待できる。

3. 横手産農産物のブランド化の推進

観光客に農産物の収穫体験を実施し、それらを調理し提供できる店舗を増やすことで横手産農産物の付加価値を高める。また、いぶりがっこを高級ワインやチーズと食することを推奨するなど、横手産農産物と相性のよい食品のセットによるブランド化を目指し、それをアンテナショップなどでも PR し、知名度を高める。さらに、世界的に価格高騰が続く小麦栽培に取り組み、「横手産小麦」のブランド化を目指すなど、米だけに頼らない新たな作物の栽培に取り組むことも必要と考える。

Y 8 提案第 2 号

旧十文字第一小学校と周辺エリアの利活用について

十文字中学校から次のとおり政策提案する。

令和 4 年 1 1 月 1 0 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



十文字中学校

〔提案説明者〕

18 番 こまつたかひろ 小松峻大 議員、19 番 すがわらゆうだい 菅原悠太 議員、20 番 ふじたじょうた 藤田城太 議員

〔提案要旨〕

秋田県や横手市は人口減少が深刻化しており、特に若者が都会に移り住み、少子高齢化が進んでいる。横手市をもっと活気あふれる街にするためには、人口流出を食い止めることが重要であり、多くの人に「横手を訪問したい、住んでみたい」と思ってもらふことや、住民がこれからも住み続けたいと思えるような魅力的なイベントを行うことも不可欠だと考える。以上のことから、「旧十文字第一小学校とその周辺エリアの利活用」を提案する。この提案に当たり、令和 2 年度に横手市が「サウンディング型市場調査」を行った結果、校舎を解体して事業展開をするという提案があったことから、校舎も含めた周辺エリアの整備、活用方法として次の 2 点を提案する。

1. 宿泊施設やイベントスペースとしての整備

十文字駅やインターチェンジから近く、道の駅に隣接していることから、交通の便がよく、公共施設などが集まっているという利点を生かし、宿泊施設やイベントスペースとして整備する。この整備により、観光客の滞在拠点になることが期待でき、十文字映画祭が開催された際は多くの人々が立ち寄れるイベント会場とするなどの活用が見込まれる。また、十文字を横手の南の拠点として、人を呼び込むことで一層のにぎわいが期待できると考える。

2. 市民が集う「副拠点」として交流スペースを整備し、イベントを行う

周辺エリアの一角に十文字コミュニティセンターが建設され、市民が集い、交流できるスポットとしての活用が広がっていることから、コミュニティセンターとともに校舎を市民が集う「副拠点」として交流スペースを整備し、イベントを行う。幅広い年齢層の人が楽しめるイベントの実施は、住み続けたいと思える横手につながり、十文字和紙を使った製作教室の実施により若い世代が伝統文化を知り伝えていくことにもつながる。また、子どもから大人まで親しみやすい校舎をともに活用することで広いスペースを確保でき、幅広い年代の方々が集いやすくなると思える。

Y 8 提案第 3 号

横手を健康寿命県内ナンバー 1 にするための政策について

横手北中学校から次のとおり政策提案する。

令和 4 年 1 1 月 1 0 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



横手北中学校

〔提案説明者〕

2 番 おぼらしょうけい 小原正慧 議員、8 番 さいとうあきと 齊藤彬斗 議員、9 番 たかむらあきね 高村秋音 議員

〔提案要旨〕

少子高齢化が大きな問題となっているが、年を重ねても楽しく、健康に過ごすことができる環境づくりが大切であると考え、「横手を健康寿命県内ナンバー 1 にするための政策」を提案する。現在、横手市の高齢化率は約 40% であり、高齢者の健康を維持、増進していくことは必要不可欠である。運動を若い世代と共に行うことで、楽しく健康増進につなげることができ、また若い世代にとっても高齢者とのふれあいを通してふるさと横手の魅力の再発見につながり、さらにはこの交流が持続可能な社会の形成の一助になると考え、次の 2 つの取組みを提案する。

1. 「横手市『ラジオ体操』チャレンジデー」の実施

小学生がラジオ体操を行う夏休み期間中に、町内の住民が誰でも参加できる「朝のラジオ体操チャレンジデー」を設定する。ポスターを作成して周知し、多くの人に参加してもらえるようにする。また、事前に各町内で目標参加率を設定し、実際の参加率と比較することで、運動を習慣付けるきっかけづくりとなり、幅広い世代と楽しみながら健康を増進できる人が増えればよいと考えた。

2. 各町内の「健康の駅」の環境整備

高齢者の健康増進を図るという視点で、自宅から足を運びやすい小・中規模駅での活動も充実させるため、次の取組みを行ってはどうか。

- ①いきいきサロンと健康の駅がタイアップし、カードゲームや今話題の e スポーツを若者が高齢者に教えるなど、高齢者と若い世代が交流できる機会を設ける。
- ②健康らくらく体操の動画でトレーナーが不在でも体操ができる環境を整備する。
- ③ 1 回利用するごとに 1 つスタンプを押せるカードを作り、10 個たまると大規模駅の無料利用券と引き換えることができる特典を準備する。
- ④小・中学生や親子が使える運動器具を設置する。

Y 8 提案第 4 号

ふるさと納税返礼品を使った横手の P R と観光優待について

横手明峰中学校から次のとおり政策提案する。

令和 4 年 1 1 月 1 0 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



横手明峰中学校

〔提案説明者〕

21 番 くろさわそう 黒澤壮 議員、22 番 おおやしきりく 大屋敷凜久 議員、23 番 さとうしらね 佐藤白峰 議員

〔提案要旨〕

私たちの中学校周辺は、夜は真っ暗、冬は大雪で通学に苦勞するなどネガティブなイメージがあるが、横手には自然豊かで四季折々の姿があり、全国に誇れる特産品、歴史的文化財、伝統的行事などがたくさんある。さらに働く人は仕事や横手に誇りを持っていることが分かり、「横手ならではの」のものと横手で働く人の思いを生かし、ふるさと納税返礼品の視点から地域の活性化を図りたいと考え、次の 2 点を提案する。

1. ふるさと納税返礼品による横手の P R

ふるさと納税返礼品（お米、りんご、横手やきそばなど）の充実を図り、定期便にしてはどうか。横手の特産品が季節ごとの旬な時期に届くことで、1 年中横手を楽しむことができ、横手の P R にもなる。また、パッケージに商品の説明だけでなく、横手の風景動画や生産者の収穫シーンなどの QR コードを貼り付けることにより、バーチャル旅行的に横手に行った気分になりながら返礼品を楽しむことができ、実際に横手に来たい人が増えると考え。さらに、中学生が特産品を紹介するカードを入れることもよい P R になると考える。

2. ふるさと納税返礼品で横手観光の優待をする

①観光ツアーの参加料の優待

収穫体験・食べ放題ツアーや増田の蔵巡りツアー、かまくらツアーなどの横手の食や歴史的文化財、伝統的行事を生かしたツアーや、スポーツ立市を掲げ、新体育館が建設されることから「よこてシティハーフマラソン」や各種プロスポーツの試合などの参加・観戦ツアーが考えられる。横手の食やスポーツを格安で楽しんでもらえるツアーは多くの人にとって魅力的ではないか。

②横手で使える優待券の発行

横手の店、観光地などで使える優待券を付ける。「横手お買い物パスポート」と名付けて、1 DAY パスポートだと 5 % オフ、2 DAY だと 10 % オフ、3 DAY だと 15 % オフと滞在時間が長いほどお得な優待券を発行する。また、キャッシュレスの「J ENKO」と名付けた電子感謝券を渡すこともできると思う。優待券により、横手での観光や買い物が非常にお得になり、横手に来きたい人が増えると考え。

Y 8 提案第 5 号

若年層の流出防止を目指す天下森リゾート計画について

増田中学校から次のとおり政策提案する。

令和 4 年 1 1 月 1 0 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



増田中学校

〔提案説明者〕

5 番 まつかわそうや 松川蒼矢 議員、6 番 いしい ゆめ 石井優芽 議員、7 番 さとうあやみ 佐藤絢水議員

〔提案要旨〕

少子高齢化に伴う人口減少の背景には、若者の県外流出も大きな要因となっていることから、若年層の流出防止に着目し、横手市に暮らす若者がワクワクし、県外に一度出た人もいずれは帰ってきたいと思える魅力ある市にするための特色が必要と考えた。既存の自然環境を生かした天下森エリアの再開発を通して、多くの人が年間を通じて余暇、レジャーを楽しむ場を創出することで、若年層の流出を防ぎ、子育て世代などが生き生きと暮らせる横手市にするために「天下森スキー場等整備計画」をもとに次の政策を提案する。

1. 「エクストリームスポーツ、通称 X スポーツ」を取り入れた天下森リゾート計画

天下森の自然環境を生かしたトレイルランニング、山間を走り抜けるモトクロスバイクやバギー、マウンテンバイクのコース、さらには BMX やスケートボードを楽しめるパークを整備することで、スキー場の夏季の利用、集客の促進を図る計画である。キャンプ場の整備に伴い、X スポーツ愛好家をはじめ、多くの人がウィズコロナのニーズを満たすアウトドアライフを、滞在型のスタイルで満喫できると考える。改修が求められる「釣りキチ三平の里」体験学習館における浴室、シャワーブース等の充実も欠かせないものと思われ、冬季にはスキー場の目玉として、X スポーツをアピールするスノーボードパークやハーフパイプの整備も注目すべきポイントになる。

また、「X スポーツと言えば増田・天下森」を PR することにより、増田の蔵、まんが美術館との一体的な観光の促進、集客も望め、地域の活性化につながることを期待できる。将来的に X スポーツの大会、競技会等の開催・誘致につながれば、増田の名前がさらに広まり、若年のみならず、あらゆる世代が楽しめる「天下森リゾート」を生み出すことで、魅力ある横手市、生き生きと楽しめる横手市に近づけるのではないかと。

Y 8 提案第 6 号

「横手の魅力を伝えるストーリーコンテスト」の設立について

横手清陵学院中学校から次のとおり政策提案する。

令和 4 年 1 1 月 1 0 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



横手清陵学院中学校

〔提案説明者〕

15 番 おおた ひろ 太田陽朗 議員、16 番 すがわら ゆきな 菅原薫奈 議員、17 番 さいとう みひろ 齋藤美尋 議員

〔提案要旨〕

当初、「アニメで横手を活性化させる政策」を考えた。観光客増加やアニメに取り上げられることで市民も自分たちの街に誇りをもつことで活性化につながり、さらに市の「マンガ活用構想」を発展させるものと考えた。しかし、アニメ制作には多くの工程、人材、費用などが必要であることが分かり、横手の活性化を図りながら、アニメ制作を実現に近づけていくため、「横手の魅力を伝えるストーリーコンテスト」の設立を提案する。

1. コンテストの内容等

- ①応募条件 作品中に横手市が登場し、横手の魅力が伝わること。
- ②審査員 横手在住の方、横手出身の漫画家、声優、横手に縁のある文化人など。
- ③受賞作品 大賞には賞金を授与するとともに、作品を書籍化し、市立図書館や小・中学校図書室へ配架する。図書館には「横手の魅力を伝えるストーリーコンテスト」の特設コーナーをつくり、作中の横手市が登場する一場面をマンガやアニメのイラストと共にパネル化し展示する。また、小・中学校では読書の時間や授業等での活用や「横手の魅力を伝えるストーリー感想文コンクール」を開催し、広報等では作中の台詞を活用できると考える。

2. 効果

- ①住民は、気付かなかった横手の魅力を知ることや、小説の舞台に横手が登場することで市民一人一人が主役の意識をもつことができ、横手をもっと好きになる。
- ②市外の方は、ストーリーを考えるために取材に訪れ、横手の街や文化に興味をもつ。また、ストーリーを読むことで、観光に訪れる人もいないのではないかと考え、交流人口が増えるという効果がある。

Y 8 提案第 7 号

職業体験マッチングアプリの開発について

平鹿中学校から次のとおり政策提案する。

令和 4 年 1 1 月 1 0 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



平鹿中学校

〔提案説明者〕

3 番 ^{きむらけいと}木村京都 議員、10 番 ^{にいやまたいが}新山大雅 議員、11 番 ^{すずきあみ}鈴木愛望 議員

〔提案要旨〕

横手市の人口は年々減少し、若者が仕事を求めて都会に出ていく現状があるが、大都市に比べ働く場所は少なくても、魅力的な企業やふるさと横手に貢献している職業はたくさんある。このような様々な企業を多くの人に知ってもらい、子どもの頃から職業により関心を持ち、横手市で活躍する人材の育成につなげるため、「職業体験マッチングアプリ」の開発を提案する。

1. アプリの仕組みについて

若者が自ら職業体験の予約ができ、企業は自社に興味関心の高い若者を探すことができる。各企業はアプリを通じて「日時」、「受け入れ可能人数」、「体験内容」等を PR し、それを見て個人が申し込みを行い、実際に働く体験ができるというもの。

2. アプリの効果について

- ①秋田県の就職 3 年後の離職率は高卒者で 38.8%、大卒者で 36.6%と高く、就職を希望する個人と企業のミスマッチングを防ぐことができる。
- ②若者が横手市の魅力的な企業について詳しく知ることができ、企業にとっても就職前に仕事内容を知ってもらうチャンスになる。
- ③アプリの活用により小中高一貫して地元の企業について学ぶことができ、子どもの頃から「横手で働き、横手で暮らす」イメージをもつことで、将来、横手市で活躍する人材の確保、育成につながる。

3. アプリの開発費用、宣伝方法について

すでに出回っている無料アプリ使用により費用を抑えることができる。スマホやタブレット一つで「24 時間×365 日×どこからでも」様々な行政サービスが受けられるという取組みをしている自治体は増えており、「横手市デジタル推進計画」で行うサービスとタイアップし、職業体験の情報も得ることができるようになれば、よりアプリを利用してもらえると考える。また、宣伝方法は、メディアの活用と SNS などを使って自身の体験を発信することを考えており、さらに認知度が広がることを期待している。